

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教育学部
氏 名 瀬戸美奈子

活動テーマ	桑名市における不登校の未然防止の研究
実施期間	平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>「新たな不登校をうまない桑名市の学校作り」をテーマに桑名市の小中学校の不登校の状況について、①不登校児童生徒に関する各学校のデータを再分析し、②抽出した学校に対する学級満足度調査と分析、③小中学校への不登校事例の聞き取りや対応の課題についての検討を桑名市教育委員会指導主事と報告者で行った。</p> <p>これまでの不登校児童生徒に関するデータを再分析することによって、不登校のハイリスク群およびその要因について明らかになった。その結果、小中学校連携の課題、学級適応との関連が不登校発生のきっかけとなること、中学校での別室での対応が再登校につながる鍵を握ることが示唆された。調査結果および新たな不登校をうまないための学校での対応のポイントについては、文書にまとめ、各学校に配布することで、広く調査結果を共有し、今後の不登校対策に生かしてもらうように活用を促した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>各学校に対して不登校の要因分析や対応のポイントをまとめた文書を配布することによって、それぞれの学校課題の見直しや、不登校対応のための組織改善に貢献できた。また本活動の成果が認められ、2019 年度から桑名市教育委員会との共同研究として不登校の未然防止に取り組むことになり、今後さらに活動を発展させていく予定である。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>不登校対応の現状と課題を分析するための基礎データ提供と分析、および各学校との連絡調整、調査結果のまとめの原案作成は共同実施者である教育委員会指導主事が担当した。今後の桑名市の施策の方向について教育委員会と報告者で協議し、改善案を検討していった。定期的に教育委員会指導主事と報告者はミーティングを行い、密に成果を共有し、今後さらに連携しながら不登校対策を推進していくことを確認した。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>不登校データの再分析、新たな調査、事例の聞き取りなどから、不登校の予防には①小学校での学習へのつまづきへの支援、②中学校入学時での適応支援、③学級での居場所作り、④別室登校での支援が必要であることがうかびあがってきた。そこで報告者が担当する教職科目の授業で、学校現場での課題を取り上げ、不登校の理解と支援に関する専門性、不登校の事例検討など実践的な力の養成に向けて、アクティブラーニングを取り入れた授業実践を展開した。こうした取組が新任教員の</p>

資質向上の基盤となると考えられる。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

A中学校ブロックの小学校3校（226名）に対して、Q-Uを2回実施した。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

桑名市の不登校対応の現状と課題を、市全体の数量的データの分析、抽出校での調査、抽出事例の分析と数量的データと事例の双方から検討することで、地域の課題やニーズを明らかにすることができた。小学校段階での介入と、小中学校の有機的な連携が新たな不登校の防止につながるという基本方針を定め、桑名市の今後の施策に反映し、今後は学校での別室登校の体制作りに取り組み予定である。